

注目の最先端手法

G-TECH EXHAUST SOUND SYSTEM



↑ 排気音のリアルなデジタルサウンドを奏でるエキゾースト・サウンドシステムはダブルのテールエンドが基本。右側からデジタル音を発し、左側からは通常の排気音を奏でる



↑ 外観からは通常のマフラーと何ら変わることはない。ポイントとなるスピーカーの存在はリアアップしないと確認はできない

↑ パイプのヨコにセットされている丸みを帯びた黒い物体の中にスピーカーが仕込まれている。デジタルサウンドはスイッチによってオンとオフが設定できる仕組みとなる



↓ 室内にはサウンドのオンとオフのスイッチと、変更ボタンがセットされる。最終的には6タイプの音色が切り替わる予定だ

↓ 開発車両であるアルファロメオ4CにはHREの303Mをセット。フロントが18インチでリアが19インチといった異型サイズを採用



問●ジーテック・ジャパン
TEL:052-325-4133 www.g-techgmbh.jp
写真●柳田由人 文●増田高志(af imp.)

パフォーマンスキットは正統派チューニングメーカーのGテックならではの性能が堪能できる。アバルト500用はパワーが135PSから165PSに変換する。チューニングに合わせたアップロードも可能となる。¥138,240

奇抜なマフラーとは対照的となる硬派な高性能サブコンも開発する



それにデジタル加工を施して、狙った音色に補正する。こうして実際の排気音よりも、よりリアルな躍動感のある音質を完成させる。しかも、アクセル開度に合わせた音量の強弱を手間ひまかけて調整する。それで自然な音のメリハリを作り出していく念の入れようだ。まるでコンピュータのセッティングのように現車合せて作り込んでいく。この取り組みが本格派チューナーならではの仕事ぶりといえる。要となる音作りは2台のクルマから録音した音を掛け合わせるといったアレンジも考えている。フェラーリとランボルギーニの夢の共演は、ぜひとも聞いてみたい音色だ。現在開発中の、この奇抜なシステムが当たり前のようになる時代がすぐそこまで来ている。

デジタルサウンドを味方につけた斬新な排気音! ハイブリッド時代も怖くない 驚愕のマフラー大革命!!

脱定番の思いもよらないトピックスはスタイルアップの強力な武器となる。Gテックのマフラーもそのひとつ。ライバルに差をつけるためにアンテナの感度を上げて最先端をゲットだ

魅惑のエクゾーストノートはデジタルを駆使して生み出すクルマをモディファイするアイテムとして高い効果が期待できるマフラー。だからこそスタイルアップブリークたちの見逃せない定番メニューのひとつになっている。人気の秘密はリアフォルムのアクセントになるだけでなく、機能が向上するメリットも携えていることだ。排気効率のアップは、エンジンのストレスをなくして元気を与えてくれる。さらにノーマルでは味わえないエクゾーストノートも堪能できる。このサウンドこそが高性能なマフラーならではの醍醐味だ。しかし最近のクルマはエコを重視している。活気のあるエンジンが少なくなってきた。こうなる排気音の威勢も減ってくる。さらにハイブリッド化も進んでいるし、エンジンが変わってモーターが動力源の主流になる時代も起こりうる。もう刺激的なサウンドは昔話になってしまふのか……、とお嘆きなユーザーに朗報だ。ドイツのチューニングメーカーであるGテックがどんなクルマでも官能的なサウンドが手に入るアイテムを生み出した。なんとマフラーにスピーカーを合体させた、全く新しいアプローチで開発。デジタル技術を駆使して作ったサウンドをテールエンドから流すといった斬新な手法に挑んだ。ハナシを聞くだけだと、なんとも子供じみた発想に思えてしまうが、実際の完成度は高い。ベースとなるサウンドは実車を使って録音する。